

## ご挨拶

徳島大学整形外科同門会 会長 邊 見 達 彦

同門会員の皆様，新年明けましておめでとうございます。

今年は庚子年（かのえね）です。庚は結実，形成を表し，子は命の誕生の意味らしく、「庚子年」は動きがあり新しいものを作ろうとする年になるようです。

多くの同門の先生方はおそらく昭和，平成，令和と三世代を過ごしてこられて令和最初のお正月を迎えられた方が多いことと思います。皆様にとって実り多い1年になりますように願っております。今年の4月には2年ぶりの診療報酬改定で多くの先生方が頭をなやますことと思いますがどうか切り抜け，そして，夏にはオリンピックを楽しみたいものです。

2019年同門会を振り返りますと，同門会で何よりの慶事は平成31年4月1日の浦岡秀行先生の徳島県立海部病院長就任です。長年海部病院で地域医療に貢献してこられ，その結果での院長就任ですので同門会としても心より祝福させていただきたいと思います。これまで海部病院で地域医療を浦岡先生と共に支えてこられた同門の先生方もさぞかしお喜びのことと存じます。これからの地域医療は人口減の中で，医師不足，看護師不足など難しい問題も沢山ありますので同じ整形外科同門の院長として協力してゆきたいと考えております。

関連病院に関しては県外では基幹的な病院は人員の不足の中で診療実績は素晴らしいものがあるようです。県内でもそれぞれの病院が特徴のある医療を展開し，多くの病院でスタッフの頑張りで診療成績は上昇傾向と聞きます。他にも全国の多くの公的病院，民間病院，個人開業医院などで同門会員は地域の医療に貢献されています。これからも頑張ってくださいと期待しております。

ところで，入局者を確保し関連病院へのスタッフの派遣を継続するために，この対策の一つとして，現在学外実習で5年生の学生が1月から3月にかけていくつかの関連病院で4週間毎の2グループで実習に来ますのでその時に整形外科の魅力を見せて勧誘し入局につなげて欲しいと考えます。そのような実習病院の先生方にはご苦勞をおかけしますが多くの整形外科入局希望者が出るよ

うにご協力をお願い申し上げます。

同門会の運営に関しては年会費の納入をどうぞよろしくお願い申し上げます。これまで同門会員全員に同門会誌や住所録の発送、研究会、講演会のお知らせなどを平等にやってまいりましたが、年会費未納による影響で運営に支障の出る状況になってまいりました。今一度の会費納入の確認と未納会費の納入をお願い申し上げます。

個人的な話題になりますが、2020年は東京オリンピックのある賑やかな年になりそうですね。2019ラグビーワールドカップの盛況ぶりからみても、オリンピック時期は世界各国からの来日客が日本中に溢れ、日本人がオリンピック参加のチケットやホテル予約取りにくくなりそうです。私もオリンピックチケット全敗でした。皆様はどうでしたか？

整形外科医局の2019年は脊椎では西良浩一教授、酒井准教授を中心に低侵襲手術を導入し、全内視鏡手術を腰椎椎間板ヘルニアのみならず、腰部脊柱管狭窄症にも拡大し、さらに、脊椎固定術のような大きな手術にまで低侵襲手術を適応し良い成績を上げています。これまでの大きな侵襲が当然と考えてきた脊椎外科手術の多くで、より低侵襲な手術が可能となっています。昭和52年入局の私にとって、腰椎椎間板ヘルニアの多くの症例で内視鏡下の小さな切開に加え局所麻酔での手術が可能となったこと、また腰椎椎体間前方固定術も全身麻酔ではありますが小切開手術に変わってきていることに驚いています。西良教授が高い評価でNHKの「プロフェッショナル」という番組に出られたのも誇らしい話題でした。

このような実績を全国の脊椎外科医に認められ令和元年11月28日～29日には高松市サンポート高松で日本低侵襲脊椎外科学会を西良教授が学会長として開催されました。全国から多くの先生方を迎え、また27日の前夜祭・全員懇親会では海外からの沢山の先生方が笑顔でご挨拶をされていたのが印象的でした。

それに加えて、股関節、膝などの関節外科分野、スポーツ整形分野、腫瘍外科分野、新しく、足の外科分野、さらにこれら以外の分野でも多くの先生が熱心に研究、臨床に携わっておられ非常に頼もしいです。

新しいことでは、関節外科では他の国立大学に先駆けていち早くロボット手術を導入し濱田先生が人工膝関節置換術に適應しています。これも新聞紙上で

報道され徳島大学整形外科の先進性を示しています。今後はさらに後東先生が股関節外科にもロボット手術を導入の計画があると聞きました。実現が期待される非常に楽しい話題です。

医療を取り巻く環境は決してたやすくありませんが、整形外科は、高齢化社会が一段と進む時代の中で、骨粗しょう症、関節疾患、脊椎疾患など加齢変化で起こるロコモティブ症候群などの避けようのない疾患、障害に立ち向かう機会はますます多くなる診療科です。国民の健康保持の使命を果たすべくそれぞれの置かれている立場で、診療、研究、教育に精進していただきたいと一市民としても期待しております。

最後に、同門会入会者数はこれまで405名を数えております。残念ながら、昨年は数名の会員の先生を見送る年になり物故会員は総数50名までになりました。これも同門会が67年の歴史を持つことによります。物故会員のこれまでのご功績に感謝するとともにご冥福をお祈り申し上げます。

